

入館  
無料

第28回  
企画展

さいたまの  
酒  
造り



「酒醸一式之圖絵馬」より  
(成田山靈光館蔵)

平成29年 3月11日(土) ▶ 5月7日(日)

さいたま市立博物館

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2-1-2 ☎048-644-2322  
開館時間：午前9時～午後4時30分 休館日：祝日を除く月曜日、3月21日(火)、5月2日(火)  
<http://www.city.saitama.jp/004/005/004/005/008>



●大宮駅から徒歩15分  
●駐車場が狭いので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



第28回  
企画展

さいたまの

# 酒造り

展示  
構成

1. 酒のつくりかた
2. 酒造りの歴史
3. さいたままで酒をつくる・売る人々と酒
4. 埼玉県の酒造りの今

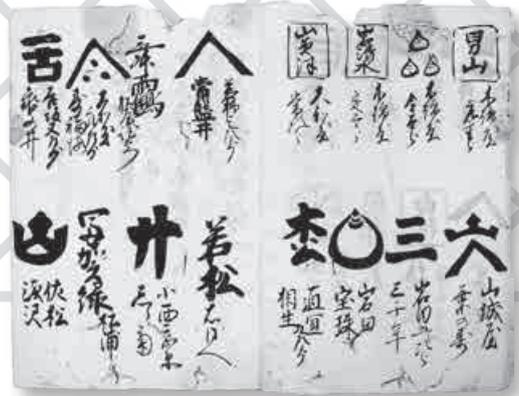
日本の酒造りの歴史は古く、稲作が伝わるのと同様に、米による酒造りが始まったのではないかと考えられています。現在の酒造りは江戸時代、伊丹（現在の兵庫県）から始まりました。それら上方で造られた酒は、江戸へと大量に輸送されてくるようになります。

江戸の近郊である武蔵国でも、関東平野に広がる広大な田んぼで取れる米と、荒川水系や利根川水系の豊かな水を使用して酒造業が発達を遂げていきました。さいたま市内にも、江戸時代には村々に酒を造る家があり、そして現在も続く造り酒屋があります。

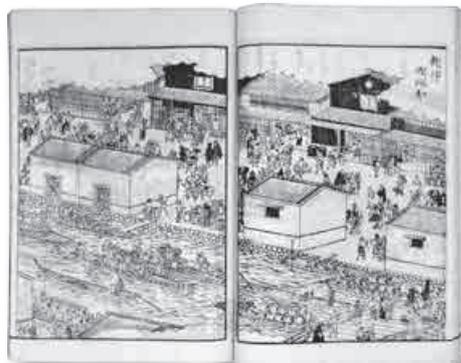
今回の展示では、酒造りに関する道具や文書などの資料から、さいたま市内の酒造りを探っていきます。



暖気樽 (鈴木酒造酒蔵資料館蔵)



関野家文書 (さいたま市立浦和博物館蔵)



江戸名所図会 (当館蔵)



酒造鑑札 (税務大学校租税史料室蔵)

## 関連講座

### ① 「近代の埼玉県における酒造業」

3月25日(土) 午後2時～午後3時30分

会場：さいたま市立博物館講座室

講師：青木隆浩氏 (国立歴史民俗博物館准教授)

定員：50名 費用：無料

### ② 「酒の文化史—神人が共食・人々が饗宴」

3月26日(日) 午後2時～午後3時30分

会場：さいたま市立博物館講座室

講師：神崎宣武氏 (民俗学者・旅の文化研究所所長)

定員：50名 費用：無料

## 申込方法

3月7日(火)午前9時から、お電話で博物館にお問い合わせください。

## 学芸員による展示解説

3月19日(日)・4月15日(土)

午前11時～・午後2時～ (各30分程度) [申込不要]